

**江上博之議員 議案質疑(6月19日)**

**天守閣木造化2022年完成の基本協定書は破棄を  
一度中止して市民の声を聞け**



**工場の影響などを追加で回答**

名古屋城天守の木造化を巡り、現天守の先行解体を文化庁に申請している名古屋市は19日、文化庁から求められた追加回答を提出、同日の本会議で江上博之議員が回答内容などについて質問しました。観光文化交流局長は、解体工事が石垣などに無影響だとする根拠や「石垣保全の方針」など文化庁から回答を求められたとしつつ、どう回答したかは明かしていませんでした。

**石垣保全方針-石垣部会と市で不一致**

しかし「石垣保全の方針」について、「石垣保全が最優先で市の保全方針では不十分」とする石垣部会と市で一致を見ていないことは市も認めており、文化庁から解体・木造化の許可が出る根拠がありません。

**基本協定書は破棄すべき**

竹中工務店との木造化の基本協定書では完成期限を2022年としており、名古屋市は6月議会で解体予算が

通れば期限に間に合うとしてきました。江上議員は「6月中に解体予算が採択されない場合協定書を破棄すべき」と求めましたが、市長は「破棄は全く考えていない」と答弁。そこで江上議員が22年完成を守るのか」と聞くと市長は「努力する」と答えるのみでした。

**木材調達は中止すべき**

木材等の保管施設の工事費3億円余を計る議案について、江上議員は「木造復元どころか解体の許可も出ず見通しのない事業。木材調達は中止し議案撤回すべき」と求めましたが、市長は審議を求めました。

江上議員は「市民合意も文化庁の許可もないまま2022年完成に固執することが問題の原因」と述べ事業の中止と市民意見聴取を求めました。

文化庁は、21日の審議会で現天守の解体を議題とせず、解体許可を出しませんでした。



**江上博之議員 議案外質問 (20日)**

**大江川埋め立てに  
リニア汚染土はつかうな**

**ヒ素検出土砂ではなく 名古屋港のしゅんせつ土砂の活用を**

**大江川に汚染土を入れてはいけない**

JR東海がすすめるリニアの日吉トンネル工事(岐阜県市)の際に、土壌汚染対策法の基準値をこえる高濃度のヒ素などを含む残土が発生した問題で、同社は残土を海洋の埋め立てに使う計画であるとの報道があります(海域に適用される海洋汚染防止法は、陸地の土壌汚染対策法よりヒ素なら10倍も緩い基準です)。一方名古屋市は昨年11月、名古屋港にそそぐ大江川の埋立にリニア残土を使いたいと表明しています。

20日の江上議員の質問に住宅都市局長は「(大江川埋め立てにリニア残土を使うか)JR東海と本市、及び名古屋港管理組合で協議をはじめた」と答えました。

**土壌汚染対策法の適応を**

江上議員は、「周辺の皆さんの安全のため、埋め立てには土質基準が厳しい土壌汚染対策法を適用すべき」

「十分な住民説明を」と求めたところ、緑政土木局長は「慎重に検討する」「丁寧に分かりやすく説明する」と応じました。

**名古屋港しゅんせつ土砂の利用を**

江上議員は名古屋港しゅんせつ土砂の利用を提案。緑政土木局長は「関係法令を遵守しつつ慎重に検討する」と答えました。

